

稲子谷の有楽町海進による埋没林：地学散歩(7)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-09-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小川, 賢之輔 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025758

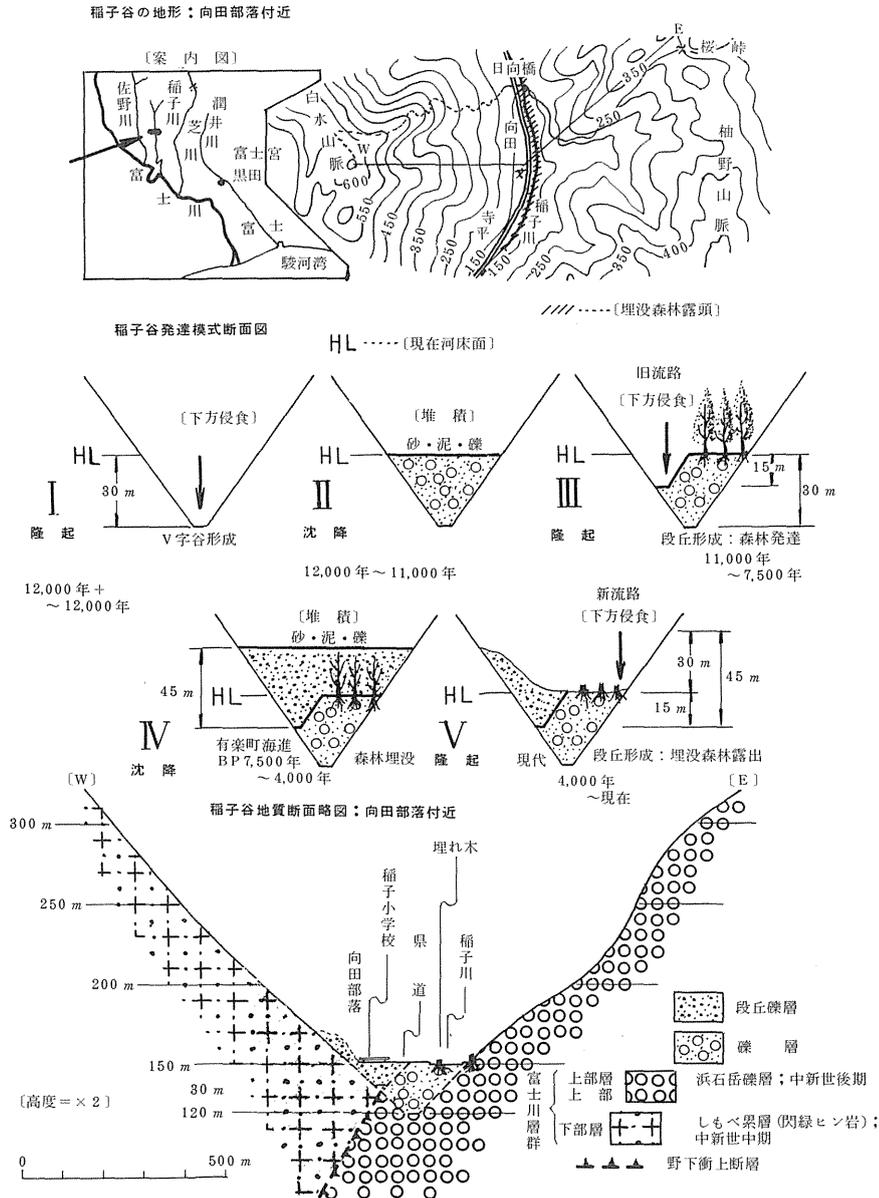
稲子谷の有楽町海進による埋没林

—地学散歩(7)—

小川 賢之輔*

富士郡芝川町の、富士川支流稲子谷には、埋没林の存在することが確認された。その位置は、同町上稲子、向田部落日向橋上流約350 m地点—稲子小学校下流約1,000 m地点間、約1,350 mの、稲子川沿いの地域である。露頭は、現在では学校の東側の河床付近に限られ、他は護岸の石垣の内側に埋められている。日向橋付近左岸には、シルト質粘土層中に、大小の倒木が埋れ木として露出し、かつては採掘された。樹種はスギ・ヒノキ・カシ・ホウその他の雑木である。

C¹⁴法などによる測定未了の現在では、単なる推定の域を出ないが、侵食地形・段丘・堆積の状態から対比すれば(別表)、この埋没林は、有楽町海進(縄文海進)によって、比較的急速に埋没したものと推定され、今後C¹⁴法などによって、約7,000年±以前の、現在より数度C+の気候下の年代が得られるものと期待される。(以下裏表紙につづく)





第1図 有楽町海進による埋没林(1)：稲子小学校東側の稲子川河床（右岸側），樹種：スギ古期段丘礫層上に生育したもの，高さ1 m 残存，上端の直径NS 95 cm，EW 80 cm，周囲地上50 cmで430 cm・上端で279 cm・年齢推定100年±，現生の杉よりはるかに粗く，殊に外部程粗い（年輪の幅10mm±），現代よりも著しく高温多湿であったものと推定される。保存状態は良好である。



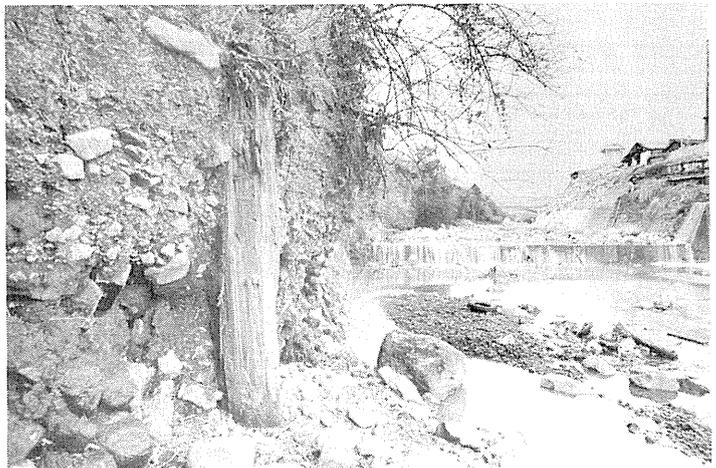
第2図 有楽町海進による埋没林(2)：稲子小学校東側より見た稲子川上流(北方)の埋没林地域，多くの直立樹・埋れ木が存在した。

第3図 有楽町海進による埋没林：(3)稲子小学校東側の稲子川河床(左岸側)，樹種：スギ，高さ約50cm残存，上端の直径NS143cm，EW100cm，年輪推定165年±。



第4図 有楽町海進による埋没林(3)：稲子小学校東側の稲子川河床(左岸)，埋れ木，樹種：スギ。

第5図 古富士泥流による埋没林：富士宮市黒田潤井川右岸，樹種：ヒノキ，露出する部分の高さ5m，直径50cm，樹齢500年。



稲子谷の地形発達史は、別図に示してある。この地域の地質は、稲子谷のほぼ中央部を、野下衝上断層がほぼ南北にはしり、これを境に東側には、中新世後期の富士川層群上部・上部層の浜石岳礫層が分布し、西側には、中新世中期の富士川層群下部の下部累層（砂・泥有律互層）が分布する。また、この下部累層は、松田時彦の万沢累層の最下部の層相を示す、十島互層の東方の延長に相当し、石英閃緑岩、閃緑ヒン岩、輝石ヒン岩などの大規模の貫入を受けている。

稲子谷埋没偽化石林形成過程

[] …… 現在の海水面基準

W …… 暖

K …… 寒

階級番号	地層時代区分		氷河時代区分		海水面変動				稲子川の河床面変化 (現在の海水面に 対し) …… 標高	主要地質現象		文化階級	
	時代区分	編年	時代区分	気候	沈降(海退)		隆起(海進)			稲子谷	地質現象		
					海面上昇	堆積	海面低下	下海侵食					
I	第四紀 沖積世	12,000年± ~12,000年	ウルム氷期	ドリフス期	K				35m±	115m (185m?)		細石器文化層 7,400年	
II		12,000 ~11,000年	氷期	フレード期	W		砂礫 35m			150m	(新隆起?)		
III		11,000 ~7,500年	1万年	新ドリフス期 先ホルレアル期 ボレアル期	-6°C			(-15m)	15m	735m (現在…150m)	蝸牛形成 埋没森林発見		
IV		7,500 ~4,000年		アトラント期	+2°C	約100m± (東京湾) (+2m)	砂礫 ・泥 45m			180m	有楽町海進 (埋没海進)		埋没時代 早期 4,700 前期 5,100 中期 4,500 晩期
V		4,000年 ~現在		亜ホルレアル期 亜アトラント期	現在 ±0°C				30m	150m	紋石形成 埋没偽化石林 露出		

富士宮市黒田部落潤井川河床の埋没林：1970年7月、津屋弘彦によって発見された。地点は潤井川田中橋下流約150m右岸で、埋没林は厚さ約10mの古富士泥流層によって埋没されている。樹種はスギ、ヒノキなどで、静大鮫島研究室の液体シンチレーションによるC¹⁴年代測定結果では、19,500年±前と推定された。またヒノキの年輪密度から、当時の気候は6°~7°Cと推定されている。

(静岡県地学会副会長)